

芸術（書道）

1 研究のテーマ

(1) 研究テーマ

意図に基づいて作品を構想し、主体的に表現を工夫する学習過程の実践

(2) 研究のねらい

臨書学習で身に付けた行書の運筆、用筆や多様な字形などの知識と技能を生かして創作活動を行う。生徒個々が制作意図を明確にし、その意図に基づいた表現方法を工夫する。そのために、効果的なワークシート（制作プリント）の作成やＩＣＴの効果的な活用方法について検討する。併せて指導と評価の在り方について考える。

2 実践事例

(1) 単元指導計画

ア 科目名：書道Ⅰ

イ 単元名：漢字の書（行書） 四字熟語を色紙に書く

ウ 単元の目標：制作意図を明確にし、その意図に基づいた表現方法を工夫する。

エ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>【A表現】</p> <ul style="list-style-type: none">・書を構成する要素について、それら相互の関連がもたらす働きと行書を関わらせて理解している。（知識）・古典の線質、字形や構成を生かした行書の表現の技能を身に付けています。（技能） <p>【B鑑賞】</p> <p>線質、字形、構成等の要素と表現効果について理解している。</p>	<p>【A表現】</p> <p>意図に基づいた表現について構想し工夫している。</p> <p>【B鑑賞】</p> <p>古典や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。</p>	<p>【A表現】</p> <p>意図に基づく表現、行書の特質に基づく表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>【B鑑賞】</p> <p>書のよさや美しさを味わい、作品の価値とその根拠について考えながら、鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。</p>

オ 単元（題材）の指導と評価の計画 ○「記録に残す評価」 ●「指導に生かす評価」

次	時	学習活動	知	思	態	評価のポイント・指導上のポイント
1	1	<ul style="list-style-type: none">○行書の特徴を確認する。○選文：四字熟語を決定する。<ul style="list-style-type: none">・重点項目：言葉の意味と色紙形式に合う字形を考えて選文する。○「表現したいイメージ」を選択し制作意図を明確にする。○字典を用いて、鉛筆で行書の字を写す。	●			【知識（表現）：評価のポイント】行書特有の字形や用筆・運筆の特徴を理解している。
	2	<ul style="list-style-type: none">○制作意図に基づいた表現を工夫し草稿を作る。○行書の特徴を確認しながら毛筆で練習する。○「途中経過の振り返り」を制作プリントに記入する。○制作プリントと途中経過の作品を提出する。			●	

2 本時	3	○制作意図に基づき、前時の作品を自己批正する。 ○自己批正した内容に基づき色紙サイズの紙に練習する。	○	●	
		○作品の意図を説明し、相互鑑賞する。 ○相互鑑賞した内容に基づき作品を見直す。			
3	5	○練習を重ねる。 ○色紙に清書する。落款・押印。	○	○	<p>【思（表現）：評価のポイント】書の表現効果について工夫しているかを制作プリントから評価する。</p> <p>【主（表現）：評価のポイント】制作意図に基づいて表現を工夫しているかを制作プリントから評価する。</p> <p>【主（表現）：評価のポイント】途中経過の作品と清書から作品の変容を見取り、更に制作プリントから、粘り強く練習したり、作品を改善していくこうとしたりする態度を読み取り評価する。</p> <p>【技能（表現）：評価のポイント】行書特有の字形や用筆・運筆など創造的な表現技能を身に付けているかを清書作品から評価する。</p>
		○清書作品を鑑賞し、Google Classroom のGoogle フォームに各作品から感じるイメージを回答する。 ○制作プリントに振り返りを書く。			

力 授業実践例 （3・4時間目／5時間）

学習活動（指導上の留意点を含む）		評価の観点 (評価方法)
導入	・本時のねらいを伝える。	
展開 1	・前時の作品とプリントを見て、制作意図を確認する。 ・制作意図に基づき、前時の作品を自己批正する。 ・自己批正した内容に基づき、色紙サイズの紙に練習する。	制作意図に基づいて表現を工夫しているか（観察）
展開 2	・3名で相互鑑賞する。（制作者は制作意図と表現の工夫を説明する。鑑賞者は作品を見ながら改善点を伝える。） ・相互鑑賞後の見直しを作品と制作プリントに記入する。	相互鑑賞した内容を生かし作品を見直そうとしているか（観察）
展開 3	・相互鑑賞を生かし作品を見直す。 ・練習を重ねる。 ・色紙に清書する。落款・押印。	制作意図に基づいて表現を工夫しているか（清書作品）

まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 制作プリントに振り返りを書く。 次時（作品鑑賞）の説明をする。（Google フォームに各作品から感じるイメージを回答する。） 	意欲的に制作活動に取り組んだか（制作プリント）
-----	--	-------------------------

研究実施校：神奈川県立港北高等学校(全日制)

実施日：令和4年11月4日(金)

授業担当者：関口 奈緒美 総括教諭

(2) 主体的・対話的で深い学びの視点に基づく指導と評価のポイント

ア 主体的・対話的で深い学びの工夫

本単元は、「生徒個々が制作意図を明確にし、その意図に基づいた表現方法を工夫する」ことを、主たるねらいとしている。

「制作プリント」（図1）により、学習の流れを把握させ、「表現したいイメージ」を提示し生徒に選択させることで制作意図を明確にさせた。さらに、「相互鑑賞」を取り入れることで他者との対話により途中経過の作品の見直しをさせ、学びを深めさせていった。

本単元の学習の流れは次のとおりである。（以下の説明の○番号は、学習の流れの番号を示す。）

- ①行書の特徴を確認する。
- ②四字熟語を決める。行書の特徴を確認する。
- ③「表現したいイメージ」を選択し制作意図を明確にする。
- ④字典を使って行書にする。
- ⑤制作意図に基づき、表現を工夫する。
- ⑥途中経過の振り返りをする。
- ⑦制作意図に基づき、前時の作品を自己批正する。
- ⑧作品の意図を説明し、相互鑑賞する。
- ⑨相互鑑賞により作品を見直す。
- ⑩色紙に清書する。制作の振り返りをする。
- ⑪Google フォームを使って作品を鑑賞する。

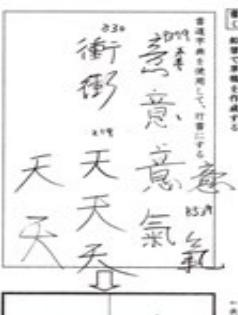
①行書の特徴 (復習)	②四字熟語を決める	④字典を使って行書にする
 ⑥途中経過の振り返り	 ③表現したいイメージ (制作意図)	 ⑤草稿
		 ⑤表現の工夫
 ⑩清書後の振り返り	 ⑨相互鑑賞後の見直し	 ⑤表現の工夫
		 ⑥途中経過の振り返り

図1 使用した制作プリント及び生徒が記述した例

※生徒の創作意欲を高める工夫

- ②行書の学習（臨書）を始める時に、
「創作において色紙に四字熟語を書く」と予告しておく
(図2)。
- ④行書の学習（臨書）で身に付けた力を認識させる。
「楷書との違いを見つけよう」
- ⑤1学期の学習（唐の四大家の楷書による倣書）で身に
付けた力を認識させる。
「線や字形によって、作品のイメージは変わるね」
- ⑩創作には、色紙やウチワ、画仙紙など、半紙以外の用
材を使用する。

宿題「四字熟語選文候補」

行書制作		四字熟語選		候	
漢	日	漢	日	漢	日
晴	竜	雷	風	天	氣
て し せ い	か り よ う	ら い じ し	し 、 は う	し ょ う ま ん	い き
晴 れ 事 の 上 げ に あ る 2 筆 や 大 12 引 き	竜 りゆう や 大 12 引 き	雷 らい や 大 12 引 き	風 ふう や 大 12 引 き	天 あま や 大 12 引 き	氣 き や 大 12 引 き
作 事 の 上 げ に あ る 2 筆 や 大 12 引 き		空 くう や 大 12 引 き		天 あま や 大 12 引 き	

図2 四字熟語を決める際に使用した制作プリント
及び生徒が記述した例

⑦自己批正（図3）の意義

- ③表現したいイメージ（制作意図）、⑤制作意図に基づいた表現の工夫が作品に現れているか確認することができる。



図3 自己批正の様子と一例

⑧相互鑑賞（図4）の意義

制作意図を鑑賞者に説明することで、制作意図に基づいた表現の工夫がどの程度達成されているかを制作者が再確認することができる。

鑑賞者からの意見を聞くことで、制作者が気付かない表現方法を見つけることができる（図5）。



図4 相互鑑賞の様子と一例

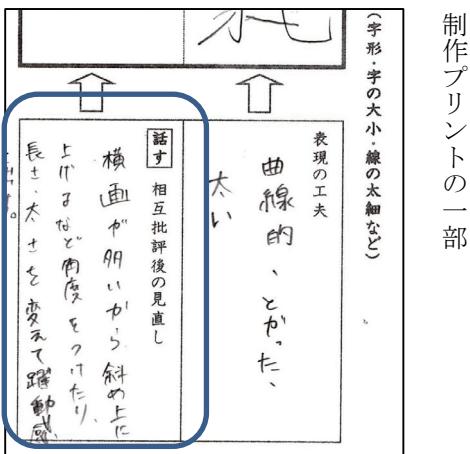


図5 生徒の相互鑑賞後の見直しの一例

イ ⑪鑑賞におけるICTの活用

清書を終えたら、各自マグネットクリップを使い、壁面に展示した。清書後すぐに全員の作品を見ることにより、生徒たちに達成感が見られた。

次時鑑賞の時間を設けて、全員が全作品についてGoogle フォームに回答した。

鑑賞のポイントを「作品から感じるイメージを選択する」と「名品を三つ選び理由を述べる」の二つに絞り、一つ一つの作品をじっくりと鑑賞できるよう配慮した。回答は次の三つの方法で活用した。

①回答後、「作品から感じるイメージ」をグラフ化して示した(図6)。

②自分の作品から他者が感じたイメージを、個人票にして配付した。

③「名品」の投票結果を、投票した生徒が挙げた理由とともに、Google Classroom に掲載した(図7)。

Google フォームを使うことで、鑑賞の活動を他者と共有することができた。グラフや個人票から、「厳しく、豪快なイメージ」や「華麗で躍動感のあるイメージ」など、鑑賞者は創作作品に複数のイメージを感じることや表現の方法からだけでなく語句の持つイメージも鑑賞に大きく作用することなどの気付きがあった。

Google フォームを活用することにより、鑑賞学習の中で作品に対する他者の感じ方を知り、自己との対話を深め、今後の創作活動に繋げることができた。

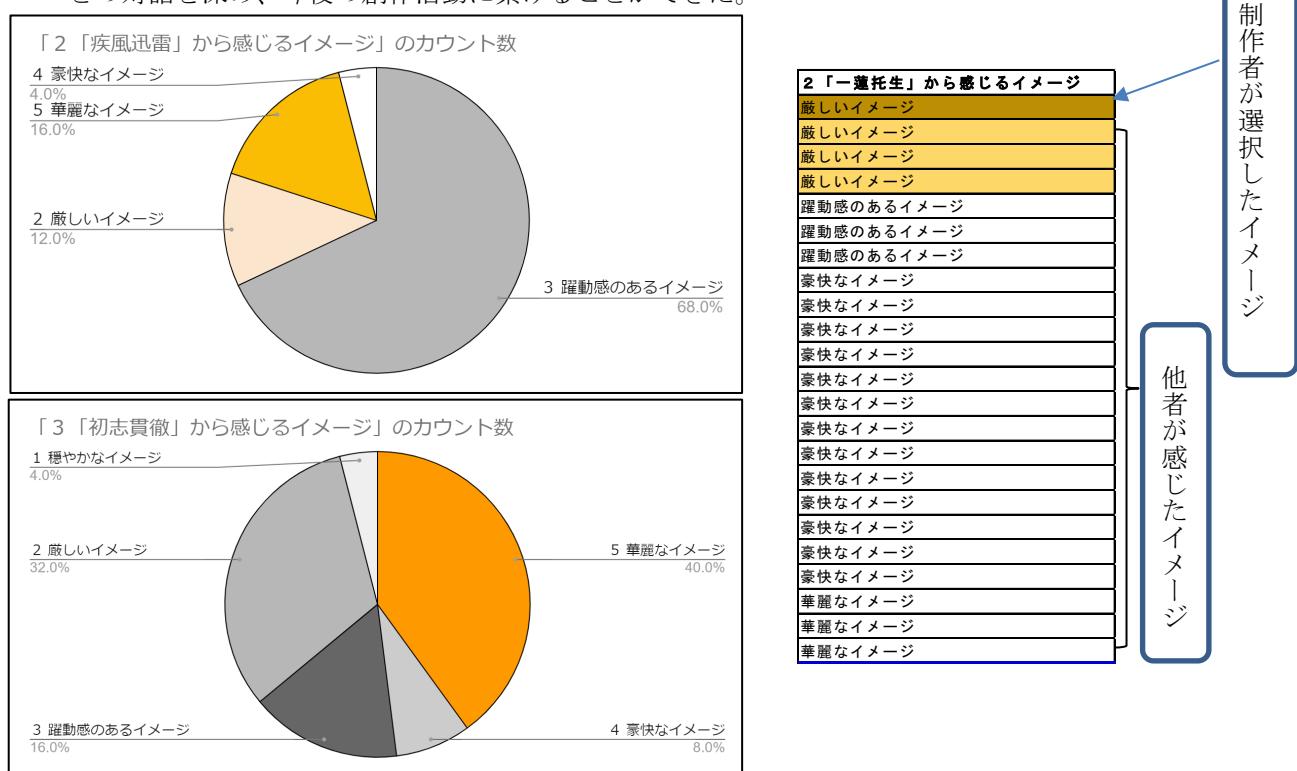


図6 「作品から感じるイメージ」のグラフと個人票の一例

② 「一蓮托生」厳しいイメージ	14	2 はらいや字の太さで豪快な感じを表現しているから。堂々とした雰囲気を感じる。
		2 4つの字の雰囲気が統一していたから。
		2ー蓮托生 一画一画がしっかり太く書かれていた
		2線が太くかっこいいから
		2線のつなぎと太さがイキイキとしているから
		2太字で豪快な感じが伝わってきたから。
		2文字に迫力があり止め払いなどがしっかりしていたため
		2力強くて華麗なイメージで意味とリンクするなと思ったから。
		2ー蓮托生 / 「ー」の字が小さく、「連」「托」の字が大きくなる所を、色紙サイズに上手く合わせていて、作品としての見栄えが良かったから。
		2筆使いが上手くて豪快なイメージを忠実に表しているから。
		2番 全体的に力強いのにバランスがいいから
		2墨が薄くなっていることもなく、強弱がある
		ー蓮托生 2全体的なバランスが良くバッと見た時に綺麗な感じが伝わってきたから。



図7 「名品」としての投票結果と「名品」に選ばれた作品の一例

ウ 評価のポイント

清書作品と制作プリントにより、行書の特徴に対する理解や表現技能の習得などを読み取り「知識・技能」を評価する。制作プリントと途中経過の作品により、制作意図に基づいた表現の工夫などを読み取り「思考・判断・表現」を評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」は、途中経過の作品と清書から作品の変容を見取り、さらに制作プリントから、粘り強く練習し、途中経過の作品を見直していくこうとする態度を読み取り評価する。

(3) 研究協議（ア、イをテーマとして研究協議を行った。授業改善の方法などの意見を紹介する。）

ア 「制作プリント」による指導について

- 前時から本時までの間に、指導者のコメントを入れる欄を設けることで、誤字を正し、行書以外の書体が用いられている草稿に対する指導をすることができる。→改善①
- プリントに記入された「表現の工夫」を集約して紹介することで表現方法の共有ができる。
→改善②
- 草稿、作品、プリントをポートフォリオにすると生徒が見直すことができる。
- 生徒に声掛けをすることで、「表現の工夫」、「相互鑑賞後の見直し」などの欄への記入漏れを防ぐことができる。→改善③

イ 途中経過の作品を見直し、制作意図に基づいて表現を更に工夫するための「相互鑑賞」について

- 相互鑑賞の流れを可視化して伝え、スムーズに意見を述べられるようにする。
- 相互鑑賞する上でのポイントは「作品を制作者が表現したいイメージに近づけるためのアドバイス」であることを伝え、どのように発言するか文型を示すと話しやすくなる。→改善④

(4) 研究協議を踏まえた改善について

今年度「書道Ⅰ」の講座は5講座ある。研究授業の講座は本単元を実施した最初の講座であったので、他の4講座において、研究協議で挙げられた授業改善の方法を実施した。

ア 「制作プリント」による指導について

改善① 提出された制作プリントの「字典を使用して行書にする」の欄に指導者が補正・助言を書き入れることで、字典から生徒が選択した楷書や特殊な字形の行書を排除し、多様な行書の形を示すことができた。また、「自己批正」時に各文字を一筆書きでなぞらせることで、筆脈を意識させることができた。

改善② 「表現の工夫」について、点画・用筆・字形・傾きに分けてそれぞれ例を示し、どのような工夫が効果的かを考えさせた。

改善③ 「表現の工夫」、「相互鑑賞後の見直し」の欄を記入する声掛けを行った。

イ 途中経過の作品を見直し、制作意図に基づいて表現を更に工夫するための「相互鑑賞」について

改善④ 助言をする生徒が話し始めやすくするために、最初に「色紙への文字の配置、落款の位置」を指摘し、次に「制作者が意図した表現の工夫が効果を挙げているか」という視点で助言をする、というように話す順番を示した。

(5) 教材研究の在り方の展望

行書学習の仕上げとして、創作「四字熟語を行書で色紙に書く」という単元を設定し自主教材を作り、長年扱ってきた。今回研究授業を実施するにあたり、指導主事の方々をはじめ、教育課程推進員の先生方、参観してくださった先生方の助言をいただき、この教材をあらためて丁寧に見直し、多くの改善点を見いだすことができた。また、今回「表現したいイメージ」を作品化することの難しさを生徒と一緒に体験し、生徒たちが創作に興味をもって取り組み、創作の楽しさや喜びを実感できるよう教材を工夫する必要性を感じた。

芸術科目の指導者は学校に1名のみであることが多い。教材研究や授業改善に関する意見交換の場を設け活用していきたい。